

## 日本一の里山で 体験学習を行っています!



伝統の炭焼きが今も残る黒川地区。人が手を入れ、木々の再生と伐採の循環を繰り返す日本一の里山と呼ばれています。ここ黒川が日本一の里山と称される理由は、

- ①全国的に貴重な今でも利用されている里山である(文  
化性)
- ②モザイク状の昔の里山景観が見られる(景観性)
- ③平安時代までさかのぼれる(歴史性)
- ④カブトムシやクワガタムシ、チョウなどが生息する(生物多様性)

など、多くの特徴を持っているためです。

川西市では体験活動の充実と互いを思い合い尊重できる心豊かな子どもの育成を目指しています。体験学習は、教室では得がたい自然の美しさや環境保護の大切さ、生命の尊さを肌と心で感じることや、集団行動や人とのふれあいをとおして、児童の豊かな心を育てます。県の事業である環境体験事業(小学3年生)、自然学校(小学5年生)、トライやる・ウィーク(中学2年生)と並んで、平成20年度から小学4年生を対象とした市独自の里山体験学習が始まりました。



この地区の里山を守る活動をとおして、ふるさと川西のよさを残します。

山「黒川」を舞台に、事業の目的をさらに明確にし、自然の大切さなど、教育はもとより地域の方々とのつながりなど、川西を愛する健やかな児童の育成を目指します。

(お問い合わせ)  
教育情報センター ☎(758)8680

### 里山地区にある 黒川公民館



黒川公民館

黒川小学校は校舎が2棟あり、北校舎は明治37年(1904)、南校舎は昭和22年(1947)の建設です。児童数の減少で昭和52年(1977)に休校となっています。明治期の木造校舎がほぼ当時の姿のまま残り、現役の公民館として使われているのは貴重です。

また、建物が県の「景観形成重要建造物」の指定を受けたことから、その適切な保存方法について、黒川地域を中心とした市民の皆様と一緒に考えていきます。

(お問い合わせ)  
中央公民館 ☎(758)0103

### 笑顔



川西市教育長 益満 良一

35歳。共に考えたい。

一学期の終わり7月9日(土)に、28名の児童・生徒が参加して子ども議会が開催された。平成4年度に始まった子ども議会も、今年で20回目である。◆当時は、市議会と執行機関との仕組みや本会議場での体験に重きを置いたようである。◆ここ数年の子ども議員の発言は川西のまちづくりなど市政全般にわたる提言や意見が多くなってきた。◆今年には防災、太陽光発電などのエネルギー問題、屋上緑化などの環境問題、安全安心なまちづくりなどの質問に、市長をはじめ幹部職員が真摯に答弁させていただいた。◆川西の子どもたちは、心から家族を愛し、地域を愛し、川西の将来を真剣に考えている。◆私たちがおとなが、今何をなすべきか、改めて問われている。明日の子どもたちのために◆第1回子ども議会に参加された子どもたちも既に30歳、35歳。共に考えたい。

# 小学校英語教育

# 小学校外国語活動の様子



本年度から実施された新学習指導要領に基づき、小学5年生・6年生を対象に、週1回(年間35時間)の外国語活動の授業が行われています。本市においては、平成20年度から、市内16校の小学校で先行実施しており、外国人指導助手や英語に堪能な地域の方々にお手伝いいただき、授業を進めてまいりました。

小学校外国語活動の目標は、「英語の音声や、基本的な表現に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の素地を養う」ことです。この目標に向けて、英語のゲ



明峰小学校

ムや歌を通して、子どもたちが他国の言語や文化に興味を持てるような授業づくりに、各校取り組んでいます。

写真は7月に行われた明峰小学校と東谷小学校の授業の様子です。外国人指導助手の出身国に関する説明を聞いて質問をしたり、自分の誕生日が言えるように、1月から12月までの名称を練習したりしています。これからも、外国語活動を通して、子どもたちが「人とのコミュニケーションの楽しさ」を体感できるように、指導の実践をめざしてまいります。

(お問い合わせ)

学校教育課 ☎(740)1254へ



東谷小学校

## 不審者 対応訓練

夏休みの期間中、学校では子どもたちの安全確保を目的に、先生方を対象とした不審者対応訓練が行われました。

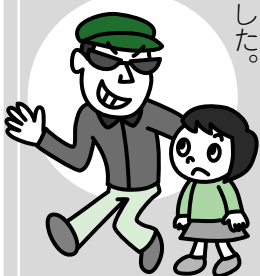
この訓練は、不審者が校内に侵入して緊急対応が必要になったことを考えたもので、校舎内に設置されている県警ホットラインやさすまたの正しい使い方について、川西警察署生活安全課・地域課の方から説明を受けます。そのほかに、不審者が教室に入ってきた場合に「どうやってほかの先生と協力するのか」「どうやって不審者から子どもたちを守るのか」、実演を通して学びます。



学校への不審者侵入は決してあってはならないことですが、万が一のことを考えて備えることは大切なことです。「犯人を逮捕するのは警察の仕事ですが、学校で子どもを守るのは先生方の仕事です」との警察の方のお話を聞き、先生方は真剣に訓練に取り組んでいました。



(お問い合わせ)  
青少年センター ☎(759)9424へ



# くに し せき 加茂遺跡国史跡追加指定記念事業を開催!!



会下山遺跡復元高床倉庫

平成23年2月7日に近畿地方を代表する弥生時代の大規模集落である加茂遺跡が国史跡に追加指定されました。また、芦屋市に所在する弥生時代の高地性集落である会下山遺跡が国史跡に新たに指定されました。これを記念して、川西市と芦屋市が連携して事業を行います。皆さん、ふるってご参加ください。

## ◎川西市文化財資料館「会下山遺跡展」

平成23年10月25日から11月27日までの間、会下山遺跡で出土した資料を展示します。芦屋市指定文化財の青銅製漢式三翼鏃も展示されます。

## ◎遺跡めぐり「会下山遺跡をたずねる」

平成23年10月29日に芦屋市教育委員会学芸員の案内で現地見学をします。標高200mからの眺望をお楽しみください。

## ◎記念講演会「阪神間史跡くらべ」

平成23年12月17日に川西市中央公民館大集会室で阪神各市に残る弥生時代から幕末までの特色ある国史跡について紹介します。また、奈良大学教授の坂井秀弥氏が基調講演をされます。

なお、平成24年2月18日には芦屋市市民センター ルナ・ホールにおいても記念講演会を開催します。

※各事業の詳細につきましては川西市広報誌でご案内します。

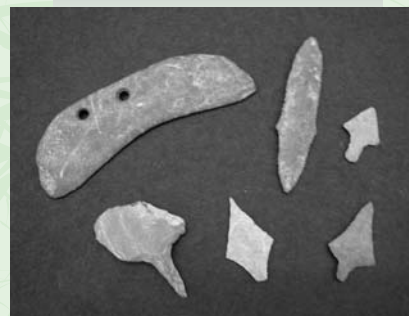


加茂遺跡大型建物跡

(お問い合わせ) 社会教育室 ☎(740)1244へ

## いにしえのかわにし②

# 加茂遺跡発見逸話



加茂遺跡出土石器

の「大発見」を披露したところ、出席メンバーの反応は意外なものでした。実は、奇しくも西宮史談会員の一人も同じ頃加茂遺跡を発見しており、會員で地元の

明治44年(1911)、加茂遺跡の崖下で栄根銅鐸が出土して今年でちょうど100年目となりますが、加茂遺跡の発見はこのあと数年後のことです。

大正4年(1915)2月、池田師範学校の笠井新也さんは、研究の一環として遺物採集の途上、当時川西市の鴨神社周辺で多量の弥生土器・石器などが散布していることに気づきました。範囲は神社の境内地を中心として東西・南北とも300メートルの広さで、当時わかっていた近畿地方の遺跡のなかでも最大級であったことから、「大遺跡発見」の喜びはかなりのものでした。ただ、しばらくは採集に専念したいことから、公表はしなかったようです。

ところが、同じ年の6月西宮史談会の例会に出席した際、こ

笠井さんには内密にしておこうという申し合わせがあったことがわかったのです。

このことが発端となり、笠井さんの所属する池田史談会に対して、神戸史談会の援軍を得た西宮史談会、さらに大阪の収集家たちを巻き込んで「遺物採集合戦」が繰り広げられることになりました。これに伴い研究者も多く訪れ、加茂遺跡は有名になりましたが、かなりの数の土器・石器が持ち去られたようです。地元からの遺物流失を危惧した地元加茂地区の宮川雄逸さんが、自宅を改造して「宮川石器館」を開館したのは昭和11年(1936)のことです。

(お問い合わせ)  
社会教育室 ☎(740)1244へ

### 手話を使って 楽しく表現 ● 加茂幼稚園 ●

加茂幼稚園では、様々な表現方法を知り、のびのびと自分の思いを伝える楽しさを味わえるように、「手話で遊ぼう」として、手話サークル「パピヨン」の方々に講師に招き、手話を使った季節や行事の歌などを子どもと保護者に楽しく教えていただいています。

歌詞に合わせて手話を付けることは、歌詞のイメージを損ねないようにすることが難しいのですが、子どもたちが覚えやすいように身振りも交えて楽しい振りを毎回教わっています。また、講師の方々のやさしく楽しい話術と人柄で、毎回子どもたちは喜んで手話を覚えていきます。

「手話で遊ぼう」で教わった歌を毎日歌っていくことで、子どもたちは、歌詞のもつイメージや意味を表現しやすくなり、歌声と共に



手話って楽しいな

に手振り身振りにも気持ちを込めて歌うことができるようになってきました。また、日々の生活の中でも手話を使って話をしたり、指文字で自分の名前を表すことができるようになったり、言葉を話す以外の表現方法を知り、楽しく使っています。これからも、子どもたちの豊かな感性がのびやかに表現できる幼稚園教育を推進したいと思っています。

### 子どもたちに、自らを守る力を育むために ● 桜が丘小学校 ●

桜が丘小学校は、川西市の玄関口である、阪急川西能勢口駅やJR川西池田駅の近くにある小学校です。通学時間帯にはバスや多くの車が走る、川西市を南北に縦断する県道12号線が校区内を通過しています。

さい小学校ですが、校区は市内で一番にぎやかなところ。夜遅くまで商店が開いており、人通りが絶えない市の中心街です。

そんな地域で生活をする子どもたちに、自らの安全や命を守る力を育む取り組みとして1年4年生までの交通安全教室と5年生6年生の非行防止教室を実施しています。

交通安全教室では、運動場に車の通る道路や交差点、横断歩道を白線で引き、信号機なども設置し、

### エイサーで広がる 「伝統と継承」 ● 緑台中学校 ●

緑台中学校では、3年生の修学旅行を平成16年度から沖繩に変更しました。

沖繩での修学旅行において生徒は、戦争の悲惨さ、平和の大切さ、命の尊さなど学ぶことが多くあります。初めて訪れた沖繩は、生徒



横断歩道の渡り方や自転車の乗り方など、道路で自分の身を守る大事なことを学びました。当日は、警察の方や交通安全協会の方に指導していただき、みんな真剣に取り組んでいました。

非行防止教室では、おもに「喫煙防止(禁煙教育)」について、喫煙実験やビデオなどで喫煙の害について学びました。たとえ周囲の人からの誘いがあったても断る勇氣を持つてほしいです。「百害あって一利なし」のたばこです。おとなも共に学ばべき内容でした。



交通ルールを守ろうね

### 「学生ボランティア募集中！」 ～地域の若い力を教育現場に～

川西市教育委員会では、随時学生ボランティアを募集しています。地域の若い力を生かして特色ある教育を進めており、将来教職を目指す大学生を中心に幼稚園・学校でお兄さん・お姉さんという立場で学生ボランティアが活動をしています。

活動内容は、教科学習、学校行事などへの支援、部活動への支援、校務、作業など教育環境の向上に関する支援などがあり、幼稚園や学校の状況に合わせて行っています。

興味のある方、やってみようと思われた方はご連絡ください。

● お問い合わせ ●  
学校教育課 ☎(74)1254へ

に貴重な体験とともに衝撃的な出会いがありました。それは、現地の方からエイサーの指導を受け、一緒に踊る機会に恵まれたことです。沖繩の民族衣装を身につけ、真剣に踊る最高のシーンが卒業アルバムの一ページを飾っています。

その後、平成18年度から体育大会や市内連合体育大会でエイサーを男女で踊ることになりました。最初の年は苦勞も多くありません。衣装や太鼓等道具はありません。その後、PTAの支援や学校の限られた予算内で少しずつ計画的に購入し、現在に至っています。

生徒のあの真剣なエイサーを踊るまなざしは大変いもので、演技に観ている多くの方々から温かな心からの拍手が会場に響きわたります。感激のあまり涙される場面にも出会い、緑台中学校ではエイサーが良き伝統となっていることが感じられます。

今年度、新たな取り組みとして



緑台中の良き伝統、エイサーを舞う！

地域の夏祭り「サマーカーニバル」で念願でもあった卒業生が緑台中学校に結集し、ふるさと川西の地でエイサーを披露しました。今後は、練習の中で、エイサーの踊りも工夫と変更を重ねながら、統一した緑台中学校のエイサーが完成し、何年たっても学校や地域で踊りが継承されることを願っています。